

分科会名	会 場 川崎市立 下河原 小学校	
	助言者	川崎市立小学校特別活動研究会会長 名取光彦
特別活動	川崎市総合教育センター指導主事 高橋 徹	
	授業者	川崎市立下河原小学校 筒井 俊
平成29年6月14日(水)	高橋美晴	
	田中 潤也 屋代和美	
司会者 川崎市立高津小学校 高橋明香		
川崎市立西梶ヶ谷小学校 長谷川由夫		
川崎市立向丘小学校 松本健史		
記録者 川崎市立岡上小学校 長谷川絵美		
世話人 川崎市立 小学校 嶋田和明		
出席者数 名		

1. 提案の概要

- (1) 2年 学級活動(1) 「2年1組ぐんぐん集会をしよう」
運動会で協力した経験を生かして、今回は学級目標の言葉にある「ぐんぐん＝協力」をクラスでのばすための集会を開くことになった。柱1では、集会でやることについて話し合い、柱2では、いろいろな人と協力するための工夫について話し合った。
- (2) 4年 学級活動(1) 「4の1大運動会をしよう」
運動会の練習を行っている中で、4の1だけの運動会を開き、学級目標に近づけるようにしたいという児童の思いから議題が選定された。事前に集めた意見を比べ合う段階から話し合った。自分と友だちの意見を比べながら、よりめあてに合った意見で、クラスにとってよい意見を考えることを目指した。
- (3) 5年 学級活動(2) 「健口(康)な生活について考えよう」
乳歯から永久歯に生え変わる10～12歳の今の時期に、歯についての正しい知識と歯を磨く習慣を身に付けたいということから、本題材を設定した。さらに、自分の体や健康について今後も考えていけることを願って授業を行った。

2. 研究協議の概要

- (2年)
 - めあてに入っている「協力」という言葉が、学級目標につながっていてよかった。事前に協力とはどういうことかを子どもたちと確認しておいたこともよかった。ただ、「協力」が入っていることで、話し合いが難しくなってしまった部分もあった。
 - 今回は、いすだけを輪にした場の設定だった。お互いの距離感が近くなるということや、真ん中の空いたスペースですぐに遊び方をやって確認できるという意図から行った。
 - まとめる段階で、賛成意見が集まっていたものに、すぐに決定せずに少数意見も生かそうという担任の声かけがよかった。担任としては、今の時期に、少数意見を大切にするという意識を育てたいという意図から声をかけた。
- (4年)
 - 事前の活動で、司会グループと話し合いの進め方についてしっかりと時間をとって確認した。それが、司会グループへの信頼につながっていた。
 - 反対意見が出た時に、色々な子が「こうしたらどう？」と解決するような意見を出していた。反対意見を出した子に寄り添っていた。その思いが伝わり、その子も納得できたと思う。
 - 学校として学級会の経験を積み重ねていくことで、高学年になった時に委員会活動やクラブ活動で話し合いがスムーズに進められるようになっている。
- (5年)
 - 事前にアンケートと取ることで、課題意識を一人一人の子がもつことができた。一方でマイナスなイメージの回答をしている児童への配慮が必要になる。
 - アンケートで「わからない」や「虫歯がない」と回答した子について、今回は「どうしてむし歯になるの？丈夫な歯があると？」という課題にし、課題意識をもたせるようにした。「どうしてむし歯になるの」では、むし歯がある子に対して予防の仕方を考える。「丈夫な歯があると」では、むし歯がある子だけではなく現在健康な歯がある子が、その歯を大事にすることが将来にどう繋がるのか考えるきっかけになる。

3. 指導講評

- ・学級会の時の場の設定や教師の位置は、学年や話合いの経験によって考えていく必要がある。
- ・学級会の話合うことの柱（1）で、集める段階に出す意見は事前に絞っている方が話合いがスムーズに進むことがある。
- ・話合いの中で、友だちの意見に寄り添えるということを大切にしてほしい。みんなが自分の意見を理解してくれているという実感を得られるようにしたい。
- ・学級会では、集会の話合いをすることが多いが、話合いや集会が回を重ねるごとにパワーアップしていけるとよい。
- ・司会グループは、輪番制で、全員が体験することが大切。上手ではない子がやることもあるが、司会や記録を成功体験で終わらせてあげるためにも事前準備が必要になる。
- ・事前の活動は、話合いの経験を積んでいけば減らしていてもよい。ただ、話合いを成功させるためにも、事前に何を決定すればよいのか、教師の思いなどをどんどん伝えていくとよい。
- ・話合いのめあては、決定する時のよりどころとなるので、今回は少し弱かった。「笑顔・元気」だけでなく、学級目標にもある「協力」ができるような集会にするとよかった。
- ・学級会での活動が、委員会やクラブ、代表委員会につながっていく。今回は2、4年生とも司会グループが「活動計画」を書いていた。子どもたちが見通しをもつことができる大事な事前の活動である。
- ・話合いが終わらなかった時に、「明日話し合う」ということがあるが、学活は週1回なので、「決定できなければ、来週までない」という厳しさも伝えていかなければならない。
- ・学級活動（2）では、他の先生（養護教諭や栄養教諭など）と一緒に授業をする強みを生かしてほしい。また、他の教科との関連も考えていけるとよい。（今回は保健の学習にもつながる）
- ・アンケートの結果を見た時に、「僕の当たり前が違っていた」という反応が見られた。お互いの回答に驚き、やってみようという気持ちにつながったり、驚かれた方もうれしい気持ちになったりする。そうすることが、人間関係が形成や、自己指導能力の育成につながっていく。
- ・社会に開かれた教育という点で、下河原小学校では校内の研究全大会の前に保護者に「どのような子に育ててほしいか」というアンケートをとっている。